

# 鬼怒テクノ通り希少動植物種モニタリング検討会

## 第11回 議事録要旨

- 
1. 日 時: 平成16年11月18日(木) 14:00 ~ 16:00
  2. 場 所: 地方職員共済組合 栃木県職員会館 ニューみくら 306会議室  
栃木県宇都宮市昭和1-3-6
  3. 検討内容
    1. 第9回議事録要旨
    2. 真岡BP工区 今後の工事計画
    3. 真岡BP工区 今後の調査計画
    4. 真岡北BP工区 今後の工事計画
    5. 真岡北BP工区 今後の調査計画
    6. ミヤマウズラの経過報告と今後の保全対策
  4. 議事要旨
    1. 第9回検討会議事録要旨
      - 了承された。
      - オオムラサキのホームページでの記述は、事前に検討委員が確認する。
    2. 真岡BP工区
      - 2-1)工事計画
        - (説明)暫定供用開始は、来年の秋を予定している。問題となる樹林は、交差点改良でも伐採せず、残存する。IC周辺開発事業のうち住居地域は、造成工事を終え、住宅が建ち始めている。
        - (意見)繁殖期の交差点改良工事は、現道上であり、やむを得ないとする。前回の検討会の時点でオオタカの生息環境は変化が進み、来年、これ以上大きく変化しないと考えられる。工事計画の背景の地図は、IC周辺開発事業の住居地域など最新の情報を記載してほしい。
      - 2-2)調査結果<オオタカ>
        - (説明)オオタカの狩り場の把握は、6定点の定点観察調査を基本とし、ビデオ監視と連動して調査を行う。ビデオカメラは1月早々までに現在の巣を対象に設置する。巣を変えた場合、確認された繁殖兆候の状況によっては、1月中にカメラを設置し直すことも検討する。
        - (意見)IC周辺開発事業もあり、オオタカは非常に限られた場所で採餌しており、きちんとした調査を行ってほしい。定点観察調査等の調査中止の判断は、4月下旬の調査結果で判断してほしい。

#### < サシバ >

- (意見) 7月まで調査を実施してほしい。付近の河川では鳥類が未調査であること、他の猛禽類のように2年連続で調査していないこと、季節により狩り場を変える可能性があることが根拠である。  
6月の検討会で最終判断を行う。

#### < オオムラサキ >

- オオムラサキの施工時の事後調査は、次回の調査で終了する。

### 3. 真岡北 BP 工区

#### 3-1) 工事計画

##### < 営巣地の保全 >

- 繁殖期、橋梁工事の上部工を行うことについて、構造上連続した施工にならざるを得ないこと、比較的現営巣木から離れていることを追記する。

#### 3-2) 調査計画

##### < オオタカ >

- B地区北個体は、繁殖状況の確認を行う。巣を変えた場合、定点観察調査の実施を検討する。
- 南個体の営巣林は十分に成長しており、昨年、巣が落ちた後もオス・メスが営巣木に執着していた。次繁殖期も元の営巣木または樹林で繁殖すると考えられる。特に計画路線付近の行動に留意して調査を実施する。

#### < サシバ >

- (意見) C地区のサシバは、今年、繁殖兆候が確認されたものの結果的に繁殖していなかった。来年も引き続き調査してもらいたい。  
サシバが飛来する4月以降、今年と同様に調査を実施する。

#### < 貴重植物 >

- 付近の河川と同様に保全をしていきたい。確認漏れのないように調査を実施してもらいたい。  
各貴重種の調査適期に調査を実施し、地元有識者のご協力を得ながら保全対策を検討していく。

#### < オオムラサキ >

- 事前調査では st.1 ~ st.4 まで全てでオオムラサキは確認された。移植した st.2 一本の木だけでなく、st.2 ~ st.4 を一つの生息地という観点で調査する。

#### 4. ミヤマウズラ

- (説明)ミヤマウズラは自生地付近の公園内に移植し、モニタリングを行う。
- (意見)ミヤマウズラの衰退について記録を整理し、原因を究明することが重要である。移植の難しさを事業者は認識してほしい。
- (意見)ミヤマウズラの衰退は、鉢上げをしなかったことも原因している可能性がある。ミヤマウズラの栽培は園芸として確立し、難しい。再移植にあたっては、その方法を良く検討する必要がある。

#### 5. 調査・保全の全体計画

- (説明)工事完了後の事後調査は実施計画を策定して、今後の検討会で提案する。

#### 6. その他

- (第 12 回検討会(真岡宇都宮バイパス区間)は、来年 1 月下旬から 2 月上旬に開催する。
- 第 13 回検討会(真岡・真岡北バイパス区間)は、来年 6 月中旬から下旬に現地調査を兼ねて開催する。